

平成 18 年 10 月 24 日 記者会見 会頭発言要旨

時事の話題

安倍政権発足について

内閣が政治のイニシアチブを取り、それぞれの分野の実力者を起用した組閣人事には、期待をしている。外交においても、懸案事項であった中国・韓国との関係改善や北朝鮮の核問題に素早い対応を取るなど、順調な立ち上がりだと評価している。

景況動向について

わが国の景気は、日銀の「金融経済月報」の基本的見解によると、緩やかに拡大を続けており、この10月で「いざなぎ景気」と並び、戦後最長の景気拡大局面を迎えた。北朝鮮・イラン問題、原油価格、米国経済の先行きなど、不安定要素はあるが、全体としては、しばらくこのままの状況で推移していくと考えている。

京都においては、本所がまとめた「経営経済動向調査(BSI)」の7月~9月の調査結果において、多くの業種で拡大基調を強め、景況感も上昇判断が続くなど、一段と力強さが見られる。今後の景況見通しについても好調を維持しており、ようやく企業と個人消費の間に好循環の流れが見え始めている。

京都商工会議所の動き

CACCI 総会について

アジア商工会議所連合会(CACCI)は、設立40周年記念総会を11月1日~2日、台北で開催する。日本商工会議所では、日本代表団を派遣する。また、本所は独自に訪問団を結成し、総会に参加することにしている。

桜ライトアップ助成先について

京都商工会議所と京都仏教会では、地元が取り組んでいる桜ライトアップ事業に対し、毎年助成をおこなっている。本年度は、7つの団体・グループから応募があり、「祇園白川」、「高瀬川沿いの桜並木」、「岡崎の琵琶湖疏水沿いの桜」、「高雄の山桜」、「佛光寺の桜まつり」、「木屋町桜並木」の計6カ所(内、が初めての助成先)のライトアップ事業に対して助成する。

京都検定の申込状況について

京都検定の受験申込者数は10月23日現在、2,750名であり、昨年を

多少上回るペース。本年度は、積極的に関東圏で認知度を上げる努力をした結果、関東圏からの申込者が増え、「京都検定」が全国的な広がりをみせている。

京都文化交流コンベンションビューローの財団法人化について

本年4月、平安建都1200年記念協会と京都コンベンションビューローが統合した京都文化交流コンベンションビューローは、来年1月の設立を目指し、11月に財団法人化の設立許可申請書を関係機関に提出する予定である。

国際ユニヴァーサルデザイン会議について

10月22日～26日まで「第2回国際ユニヴァーサルデザイン会議」を京都国際会館で開催している。より質の高いユニヴァーサルデザイン社会の実現をめざし、京都から日本国内の街づくりやモノづくりの優れた事例を積極的に世界へ発信し、情報の共有化と人的交流ができることは非常に有意義なことである。

記者からの質問

サミット誘致について

大阪も京都も首脳会合を開きたいとの思いがあり、無理に一本化する必要はない。日本を見てもらうには京都が良いと思うが、両者でいい所をアピールすれば二案あっていいのではないか。11月初め頃までには関西地域の代表が、政府に対して関西サミット開催を要望に行く予定である。

以上